

和室でのマナーに関する基礎学習

五十嵐 由利子

Basic Learning Skills about Manners on Japanese Style Room

Yuriko Igarashi

1. はじめに

本学（新潟青陵大学短期大学部）におけるマナー教育は、キャリア教育の一環として実施されてきており、幼稚園・保育園での実習、介護実習、企業等でのインターンシップ、就職活動などにおいて活かされている。その中で、挨拶の仕方を例にとると、これら実習先や就職の面接などの場面では、立位での挨拶がほとんどである。そのため、これまでのマナー教育では、立位での上半身の曲げ方（角度）によって丁寧さの違いがあることを学生たちは習ってきている。

一方、学生の卒業後の社会人としての挨拶などのマナーは、職場だけでなく自宅や他家への訪問などにおける基本的なマナーも身につけていることが望ましいが、それらは、かつては家庭教育の中で行われていた。しかし、1960年代にLDK型プランが提案され、都市部から地方へと広がっていった。この頃になると、生活の主体が「家」から「家族」そして「個人」へと移行している¹⁾。これらの影響は、LDK以外の個室にもイス式生活が取り入れられていくことに、そして改まった接客の機会も少なくなるという変化をももたらした。西田等は、大分市での調査結果から、リビングのみで接客を行う世帯が64.8%で、家族領域であるリビングで「親しい客」の接客を行い、和室では「改まった客」の接客を行う傾向があると報告している²⁾。

新潟県内においてもイス式の生活様式が中心となり、接客も座敷ではなく（座敷のない家も多くなっている）、テーブルとイス、あるいはソファなどが置かれているリビングで行われることが多いように筆者自身も感じている。そのため、学生たちは床に座って挨拶するという経験が少ないと推察され、実際、7年前に授業の一環として、新潟市内で保存されている伝統的日本住宅である旧家を見学した際、そこでお茶を出されたとき、きちんと畳に手をついての挨拶ができないことに気づいた。それは経験がなければ当然できないことであるが、この座っての挨拶は、卒業してからの社会人として必要ではないかと思った。しかし、そのような教育をどこでどのようにすればよいのかまでは考えが及ばなかった。和室でのマナーのことを忘れかけていた時、2017年3月に完成した新校舎に茶室（和室）のスペースを確保することができた。そこで、卒業を控えた2年次学生を対象に和室でのマナー講座を2017年度と2018年度に実施した。本報告は、この2年間受講した学生によるアンケート調査の結果をまとめたものである。

2. 実施方法と内容

1) 実施場所

「マナー講座」を実施した茶室の平面図を図1に、中央の和室の写真を図2に示した。中央の和室の広さは、茶道部の練習だけでなく他の授業にも使うことから、本来の茶室より広がっている。

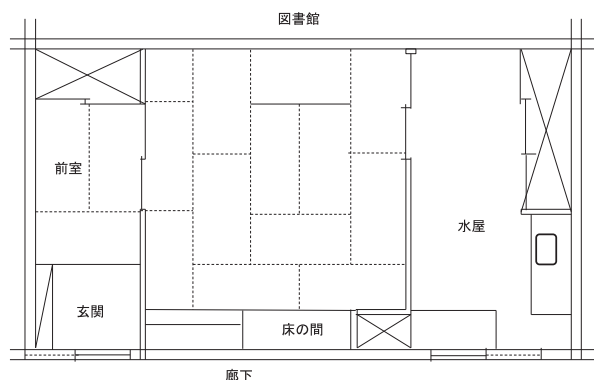


図1 茶室平面図



図2 中央和室

2) 実施方法と実施期間

2年次学生全員を対象としたため、人間総合学科では「特別研究」、幼児教育学科については「保育実践演習」のゼミ毎に、1回、1コマ90分で実施することとし、日程調整を行った。なお、1回の人数は14名前後であるが、ゼミの人数が少ない場合、複数のゼミの合同で行うこととした。

その結果、2017年度は、2017年6月7日～2018年1月15日の間に24回、2018年度は、2018年5月14日～2019年1月21日までの間に26回実施した。

3) 実施の流れと内容

実施の流れを図3に示した。玄関前の廊下で図4に示したプリントを配布し、玄関からの入り方等を説明した。和室に入ってから、順次見本を示しながら体験し、最後に表1に示した項目で構成したアン

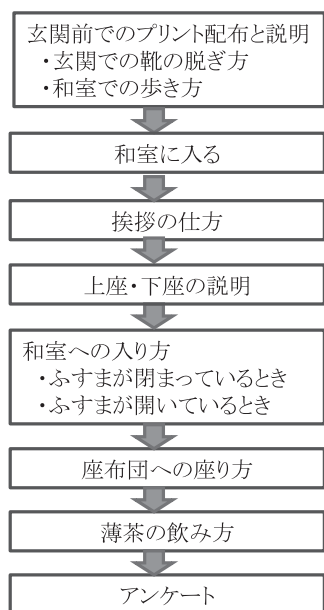


図3 マナー講座の流れ

表1 アンケート項目

項 目	選択肢
1. 自宅における和室の有無	ある、ない
2. 玄関でのマナー	知っていた、知らなかった
3. ふすまが開いていた時の入り方	やってみて、 「できそう、少し不安、自信ない」
4. ふすまが閉まっていた時の入り方	
5. 座つての挨拶の仕方	
6. 座布団への座り方	
7. 薄茶の飲み方	自由記述
8. 感想	

和室でのマナー講座

※和室に限ったことではなく、他家などに訪問し、玄関で履物を脱ぐ場合

- ① 入口から入ってきたら、そのままの向きで靴を脱ぐ。
- ② 玄関に上がり、相手にお尻を向けないように（斜めの向き）して膝を付き、靴を進行方向入り口の方向に向きを変える。
- ③ 靴を揃ってここに寄せておく。

座り方

1. 座る席
 - ・若い人たちは、一番下座と思われる席に座る。
 - ・すすめられた席が上座の場合は、遠慮すること。
 - ・席まで、歩いていくときに、畳の縁を踏まないように気を付ける。
 - ・自分の席に座ったとき、改めて丁寧にあいさつをする。
2. 座布団の座り方
 - ・座布団：中綿がずれない様に中央が糸で止められている。
 - ・糸がついているほうが表。
 - ・縫い目のない辺が前

和室ならではの注意

1. 和室の構成と座る位置（席次）
 - ・床の間の前が上座、入口に近いほうが下座
 - ・入口から遠い位置ほど上座
2. 敷居と畳の縁は、踏まないこと！
写真のようなことがないように！！
建築素材が傷まないようにということ。
また、畳の縁は家紋を入れるケースもあり、絹が使われることもあったことから、礼儀として踏まないこと。

和室への入り方

1. ふすま（出入口の戸）があいているとき
 - ・敷居の前で座る。
 - ・中に人がいるときは、軽く手をついて「失礼します」
 - ・そこで立ち上がり、中に入ったらすぐ、きちんと座って、膝前に手をつき、丁寧ににおじきをして挨拶をする。
2. ふすまが閉まっているとき
 - ・ふすまの前に座り、「失礼します」と言う。
 - ・ふすまの引手に、近い方の手の指をかけて、10 cm くらいあげる。
 - ・敷居から 30 cm くらいの高さのところに、その手をかけて、ふすまを身体の中央付近まであげる。
 - ・反対の手で、少し残してあげる。
 - ・そこで立ち上がり、中に入ったら、ふすまに向かって座り、ふすまを閉める。閉め方は、開け方の逆。
 - ・ふすまの下 30 cm くらいのところをつかんで、体の中央付近まで閉める。
 - ・手を持ち替えて、10 cm 手前まで持ってきて、引手に指をかけて閉める。
 - ・座ったまま、体の向きを、中にいる人に向けて、膝前に手をつき、丁寧ににおじきをして挨拶をする。

※部屋から出るときも同様に！

お茶の飲み方

◎お煎茶でも薄茶（お抹茶）でも、お茶碗の持ち方は共通

- ・左手はお茶碗をのせるお盆の代わりだと思って、お茶碗をしっかり載せる。
- ・右手でお茶碗をおさえて、口のところで持ってきて飲む。

***薄茶の場合**

- ・お茶が出る前に必ずお菓子が出るので、すすめられたら先にいただく。（または、周りの様子を見てタイミングを見る）
- ・お茶をもってきてくれた人が、どうぞと手をついて挨拶されるので、軽く手をついてお辞儀をする。
- ・お茶碗を手へのせ、軽く「いただきます」（無言で）をして、時計回りにお茶碗を 2 回少しまわす。
- ・お茶を飲む
- ・飲み終わったら、お茶碗の飲んだところを軽く指でなぞり、懐紙（お菓子がのっていた紙）で指を拭く。
- ・お茶碗を、時計と反対周りに 2 回ゆっくりまわして、ひざ前に出す。
- ・（このあと、お茶碗をとりこられたら、「ご馳走様でした。」とお辞儀をする。

図 4 配布プリント

ケート用紙への記入を依頼した。なお、本学全体で男性比率が5%に満たないことから、性別の質問項目は設定しなかった。また、自宅が戸建か集合住宅か、床面積などの項目については和室の有無と関連があると推察されるが、今回はマナー講座の成果を見ることに主眼をおいたため割愛した。

以上のような流れでのアンケート記入と回収であったため、回収率は100%であった。

3. 結果と考察

1) 回答者の属性

所属と各年度別の回答者数を表2に示した。また、人間総合学科については、介護福祉コースの人数が少なく統計的には課題があるが、これ以降、コース単位での集計結果を示し、考察を加えることとする。

表3に自宅における和室の有無を示した。自宅に和室があると回答した割合は、両年度とも80%を超えていた。特に、2018年度の介護福祉コースと幼児教育学科では90%を超えていた。この和室の保有状況は、他の調査結果に比し、非常に高い値であると考え。例をいくつか挙げて比較してみる。

表2 回答者数

所属		人数	
		2017年度	2018年度
人間総合学科	人間総合コース	161	170
	介護福祉コース	29	23
幼児教育学科		101	120
合計		291	313

小池孝子等の報告³⁾では、東京都内の女子大学生489人を対象に調査をし、和室のある家は69.1%、そのうち、戸建て住宅では70.9%、集合住宅では63.8%であった。住生活研究所「2017年住宅傾向調査」⁴⁾には、2016年東京に本社がある某建築会社が建築した新築住宅のうち、和室・畳コーナーのある間取りは71%だが、6畳以上の和室の割合は僅か6%であったとの報告がある。また、西部友理等⁵⁾はインターネットと住宅情報検索サイトから調査を行い、福岡県、大阪市、名古屋市、東京23区、仙台市の2017年現在売り出されている新築マンションにおける和室について調査している。その結果を見ると、仙台市が最も高く80%、次いで福岡県が72%、大阪市が48%、名古屋市が19%、そして東京23区は僅か2%であった。

これらの報告から、地方のほうが和室の保有率が高い傾向にあると考えられ、新潟県内出身者の割合が90%を超え、就職先も県内が90%を越えている本学の場合、学生の自宅だけでなく、社会に出てからも和室のある住宅に居住、また訪問する機会があることが推察される。

表3 和室の有無

単位:実数(%)

		人間総合コース	介護福祉コース	幼児教育学科	合計
2017年度	ある	132(82.0)	24(82.8)	90(89.1)	246(84.5)
	ない	29(18.0)	5(17.2)	11(10.9)	45(15.5)
2018年度	ある	141(82.9)	22(95.7)	112(93.3)	275(87.9)
	ない	29(17.1)	1(4.3)	8(6.7)	38(12.1)

2) 玄関でのマナー

日常生活においてイス式生活が中心になってきたとはいえ、欧米と大きく異なるのが玄関で履物を脱いで床にあがるという住様式である。そこで、和室に特化した質問だけでなく、他家などを訪問し、玄関で履物の脱ぐときの方法について、知っていたかどうかを聞いた。結果を図5に示した。全体としてほぼ半数が「知っていた」と回答していたが、介護福祉コースの割合が高い傾向（回答数が少ないが）があるが、人間総合コースは兩年ともやや低い結果であった。これらのことは、「知らなかった」という学生が半数程度いたということで、ここで学ぶ機会を提供できたことになる。

3) 座っての挨拶の仕方

和室に全員が座ったところで、最初に挨拶の仕方を練習する（図6）。経験が少ないせいか、丁寧な挨拶は畳に手をついてからというのが最初はスムーズにできないが、この後の和室への入り方でも挨拶を入れて何回か練習した結果、かなり上手にできるようになっていた。

挨拶の仕方の練習後に上座と下座の説明をするが、最初に「この部屋で一番よい席に座っていると思う人は？」と問いかけても、他人事のように座っている



図6 挨拶の練習（写真提供：新潟青陵大学企画課）

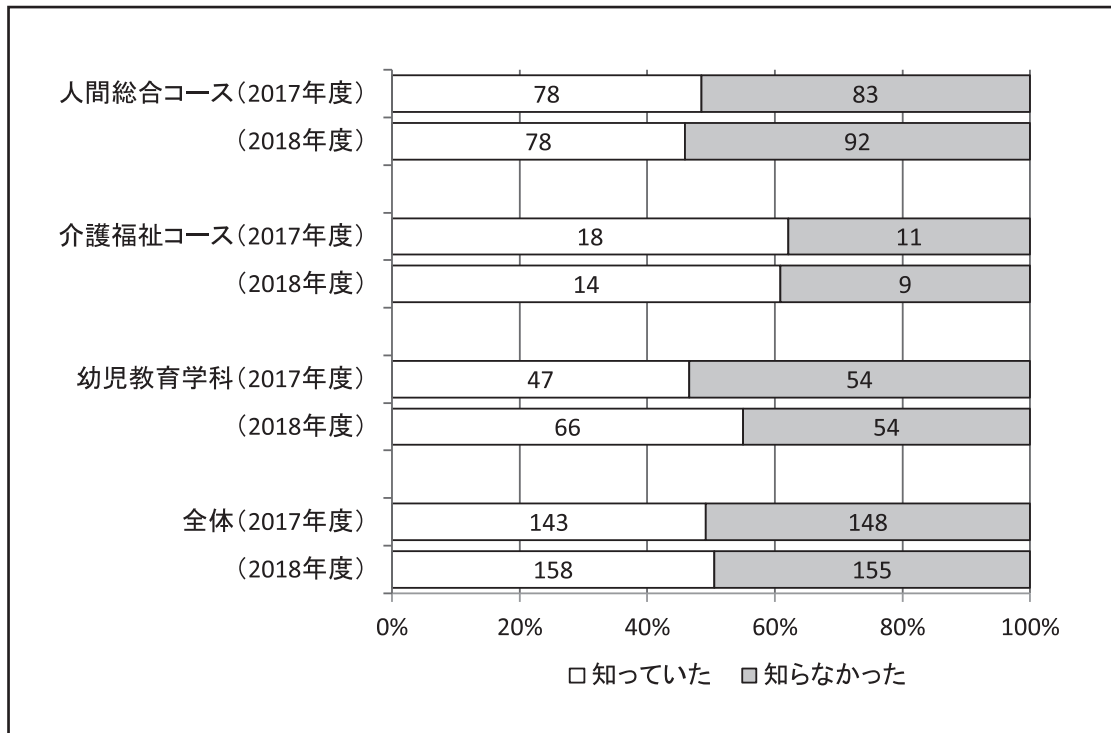


図5 和室でのマナー

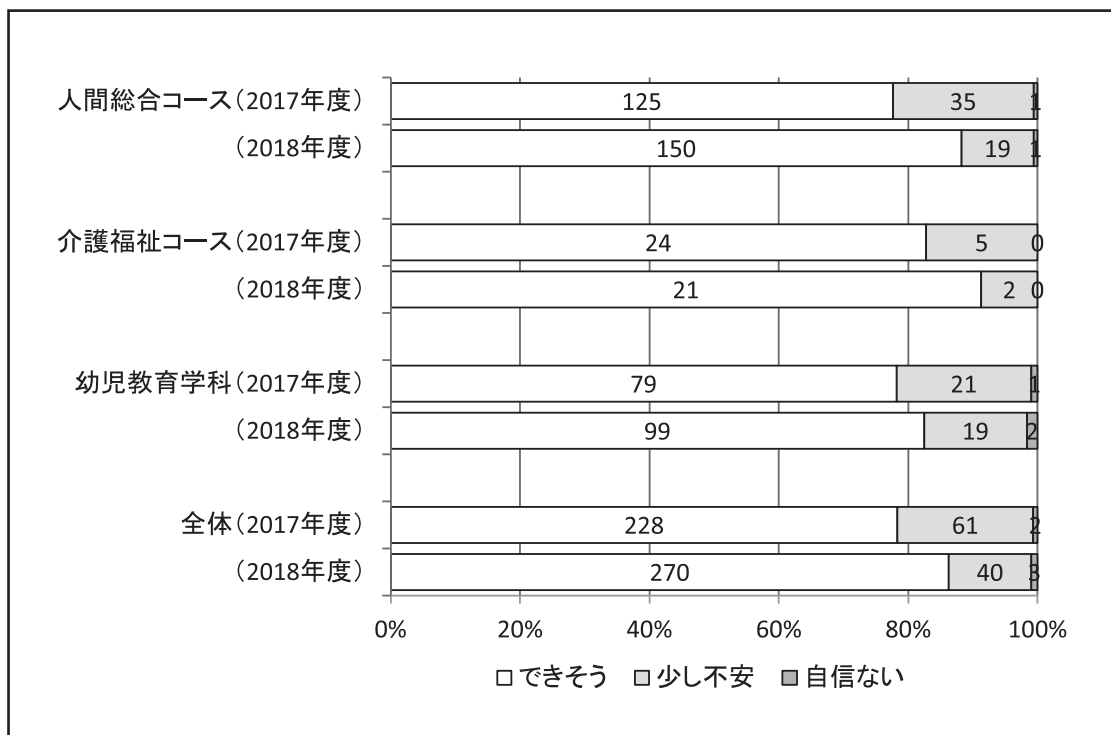


図7 挨拶の仕方

ケースがほとんどであった。和室があっても、日常的に使用したり、接客の経験がなければ分からないと思う。また、和室があっても床の間のない家も最近が多いことから、床の間について住居学の立場から少し説明を加えた。

講座終了時のアンケート結果は、図7に示したように、80%前後が「できそう」と回答し、どの所属の学生も2018年度の方がその割合が少し高くなっていた。これは、前年度の経験を活かし、「できそう」と思える割合を増加させるにはと考え、挨拶の練習の場面を2回増やしたことが関係したのではと推察される。

4) 和室への入り方

和室への入り方として、ふすまが閉まっているときと開いているときの2場面を設定して行った。

図8は、前室から和室に入るとき、閉まっていたふすまを開けている場面である。開けるときの閉めるときの手の動きは、ほとんどの学生が初めての経験で、アンケート結果(図9)でも「少し不安」が2017年度多かった。2018年度の説明では、同じ説明内容だが、丁寧に説明するよう心がけたことから、「できそう」という割合が60%前後になった。経験がな



図8 和室への入り方 (写真提供:新潟青陵大学企画課)

いとできないのは当然であるが、これからの日常生活でも経験する場面が少ないかもしれない。しかし、一度経験し、それも「難しかったけどできるようになった」という記憶は残るのではと期待している。

一方、ふすまが開いているときのアンケート結果は、図10のように、「できそう」という回答が2017年度80%前後、2018年度80%以上であった。ふすまが開いている状況では、部屋に入る前と退室時の挨拶をする位置の確認だけであるため、挨拶に自信をもった学生が増えた2018年度結果も反映していると考えられる。

5) 座布団の座り方

座布団への座り方の練習は時間の関係上、代表者数名で実施した。そのためか図11に示したように、2017年度は50%前後が「少し不安」と回答していた。「ひざを滑らせて移動し、座布団に座る」のであるが、“ひざを滑らせて”という動作が難しそうだった。全員経験する時間は難しい状況から、どのように指導したらよいか課題であった。2018年度後期になり、最初にひざを交互に動かし横に移動する方法を全員で練習してから始めたところ、代表者がみんなスムーズに座布団に座ることができるようになった。その結果、2018年度人間総合コースと幼児教育学科で「できそう」が大幅に増え、「少し不安」が半減した。

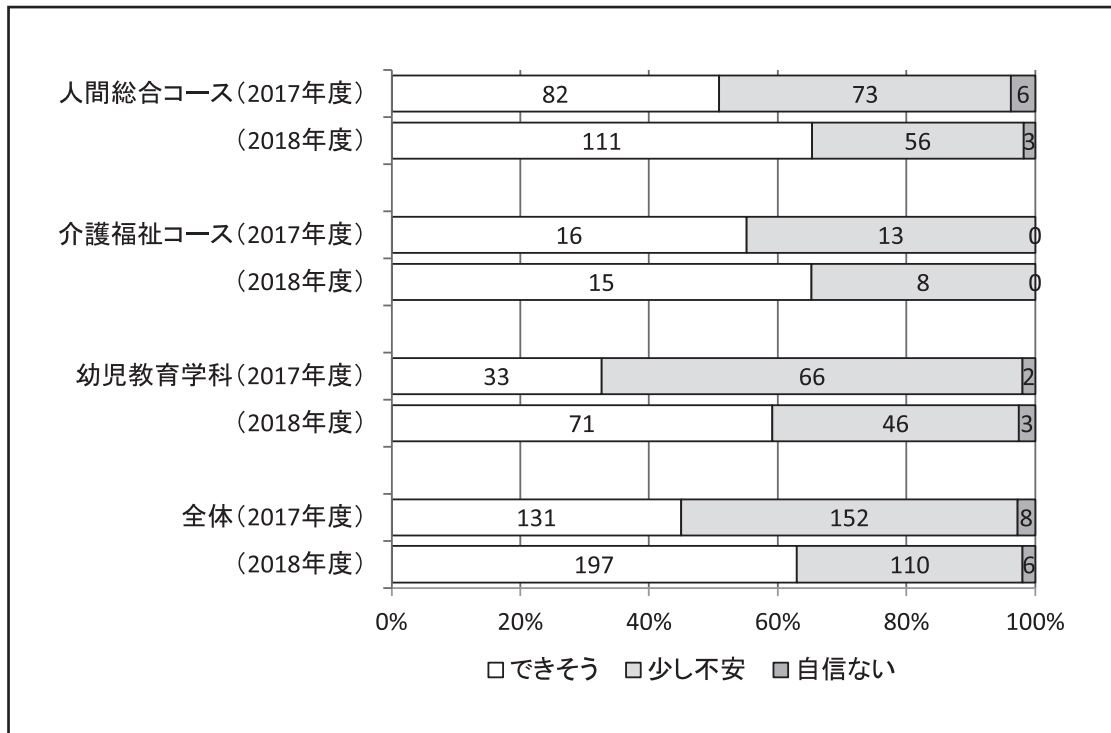


図9 和室への入り方（ふすまが閉まっているとき）

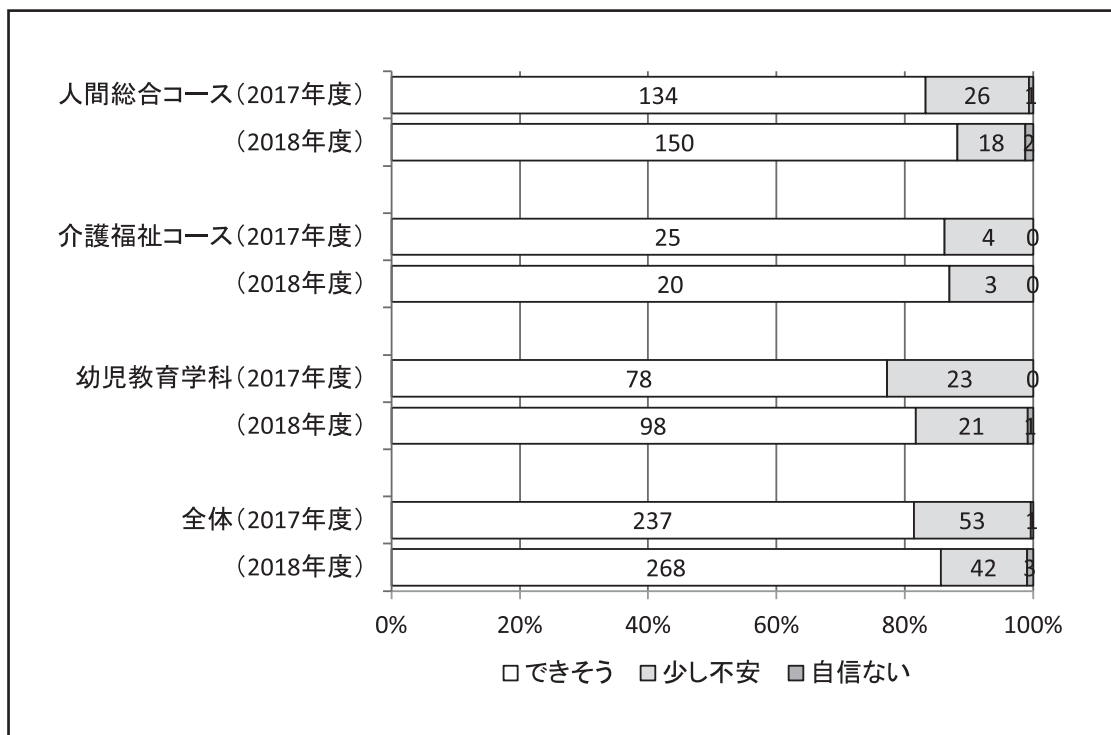


図10 和室への入り方（ふすまが開いているとき）

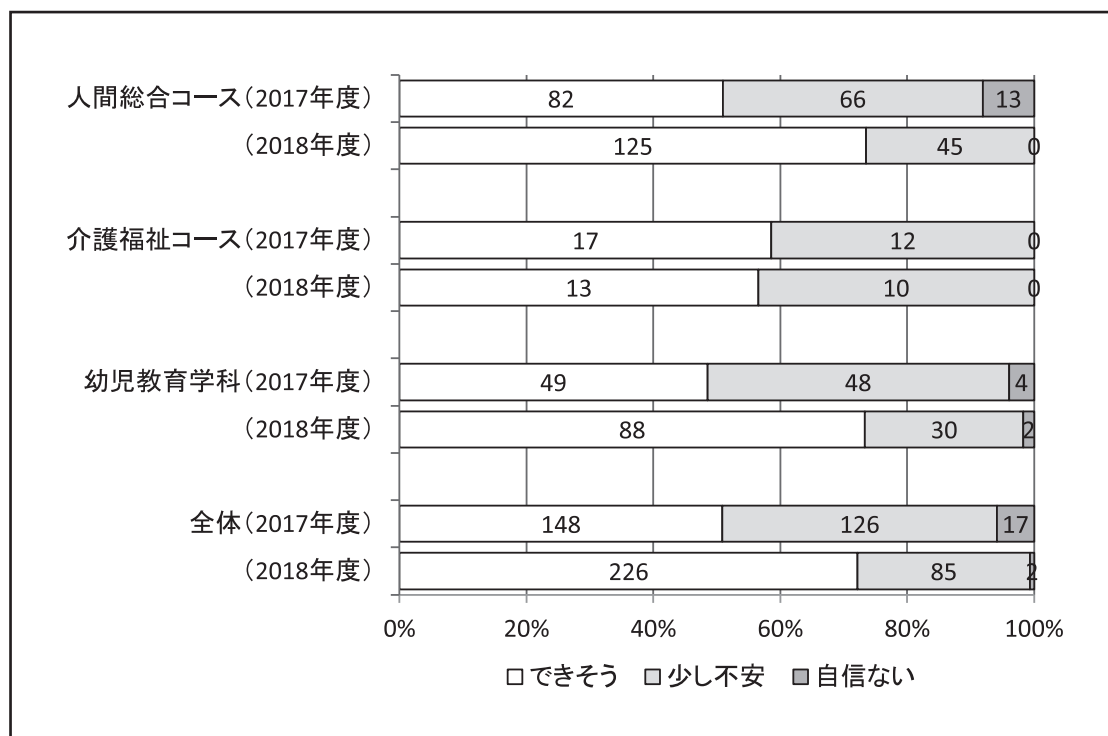


図11 座布団への座り方

6) 薄茶の飲み方

高校で茶道部だった学生は数名、薄茶を飲んだ経験のある学生はごく少なく、それも保育園のときだったという状況だったため、薄茶の茶碗を手にするのは、ほとんどの学生にとっては初体験であった。そのため、図12に示したように、2017年度、「できそう」と回答した割合は60%以下で、幼児教育学科では45.5%と低かった。2018年度の講座では、当初、前年と同様に丁寧に説明していたが、茶碗の持ち方が不自然であることが動作の流れに影響しているのではと思われ、最初に茶碗の持ち方、特に右手の形を、茶碗を持ったり、回したりするときと飲むときの違いを練習してから行った。また、薄茶の茶碗だけでなく、他の茶碗の持ち方でも同様にすると落とし難いことも強調した。その結果、僅かであるが、「できそう」という回答が増えた。

7) 感想から

2017年度、2018年度とも、最後の自由記述の感想には、同じような記載が多かった。その中から主なものを抜粋し、表4に示した。前述のように自宅に和室がある割合が8割以上と高いものの、和室が客間であるなどで、学生自身の日常生活の中で和室を使っていない状況がこの感想に表れていると推察される。すなわち、「和室でのマナーを知らなかった、初めての経験、これから社会に出ていったときに役立てたい(役立つだろう)」と書いていた学生が多かった。また、少数だが、和室の文化に着目した学生、親から教えてもらっていた学生もいた。

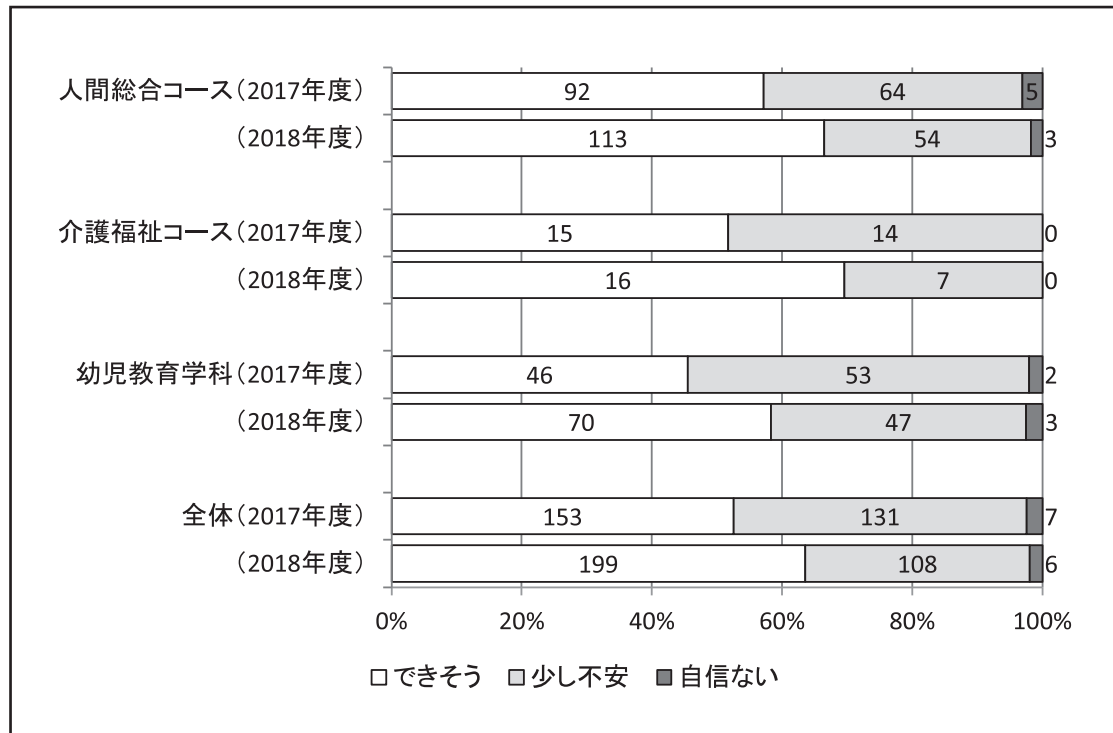


図12 薄茶の飲み方

表4 マナー講座受講後の感想から

<多かった感想>

- ・ 就活の時のようなマナー講座はたくさんやってきましたが、和室でのマナー講座は初めてでとても新鮮でした。
- ・ 知識で知っていても、なかなか実践ができないので、よい経験になりました。
- ・ 家に和室があるにもかかわらず、マナーを全く知らなかったなので、今日はとても良い勉強になりました。
- ・ 知っているのと知らないのでは全然違うと思うので、今日の講座があって本当に良かったです。
- ・ 実習の事前訪問でも和室に通されたことがあるのでもっと早く知りたかったです。
- ・ マナーを知ることができただけで、これから社会人になったときには役に立つことが多いと思うのでとてもいい勉強になりました。
- ・ 正座は慣れていないので、きつかった。

<少数の感想>

- ・ 礼儀作法を学んで思ったことは、動作に無駄がなく美しいと思った。
- ・ 日本人として、作法として美しさを身に付けておきたいと思った。
- ・ 和室は日本の独特の文化やルールが多いですが、知っていることで少し自信が持てるし、大人として必要なことだと思います。
- ・ 家に和室はあるけど、お客さんが来ても何も考えずに入ったり、挨拶していました。お盆になったら、お客さんが来るので、今日習ったことを少しでも実践できたらと思います。
- ・ 親から教えてもらっていたので、大体は知っていたが、今回、細かいところまで知ることができて良かった。

4. おわりに

2017年3月に完成した新校舎に茶室（和室）のスペースができたことから、そこで、卒業を控えた2年次学生を対象に和室でのマナー講座を2017年度と2018年度に実施し、終了時にアンケート調査を行った。その結果から、講座内容がどのような効果があったかを考察した。

自宅に和室があると回答した割合は80%を超えていたが、和室でのマナーをほとんど知らず、今回の

講座で初めて知ったという学生が多かった。本学の目指す「学生の姿」の1つに「社会人として必要な基礎的教養と礼儀を身につけている」があるが、この和室でのマナーもその社会人力の基礎となるものと考えられる。僅か1回だけの講座で、その時は「できそう」と思っても、時間の経過とともに忘れてしまうかも知れない。しかし、1回でも経験していることと、全く経験がないことでは、対応の仕方に大きな違いがでてくるのでは思われる。

2019年度も引き続き「和室でのマナー講座」を計画しているが、2018年度に説明の仕方を少し工夫したことで「できそう」の回答が前年度より増えたことを踏まえ、学生の状況を把握しながら、より身につくよう工夫をしていきたい。

最後に本講座実施に当たり、本学教員の皆様には、各ゼミでそれぞれの専門における内容を進めている中で日程調整をしていただき、感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 梁瀬度子、長沢由喜子、國嶋道子：住環境科学、朝倉書店、1995、26ページ
- 2) 西田航、鈴木義弘、中村龍二、和間美月：就寝と接客の和室利用と希望について、日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）、2018、1367-1368ページ
- 3) 小池孝子、野崎葵、定行まり子：住宅における和室の配置と使用状況について、日本家政学会第69回大会・研究発表要旨集、2017、131ページ
- 4) 住生活研究所「2017年住宅傾向調査」：<http://www.aqura.co.jp/lab/ah/ah20170209/>
- 5) 西部友理、前田修吾：現代のマンションプランに於ける和室のあり方ーその1ー、日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）、2017、1221-1222ページ